

# グローバル・ガバナンス学会

## 第8回研究大会

(日本公益学会との共催)

### 開催ご案内

日時：2016年5月14日(土)・15日(日)10時～18時

会場：早稲田大学(早稲田キャンパス)3号館

## グローバル・ガバナンス学会 第8回研究大会のご案内

安全保障関連法が施行されました。いわゆる安保法制は、昨年以來、日本の安全保障政策の転換点をなすものとして広く関心を集め、議論されてきました。政策の転換や新たな現象は、しばしば時事的な政策論を超えた、アカデミックな議論を前進させる契機になります。安保法制をめぐっても、国際関係論や法学をはじめとする分野で多彩な議論が展開しました。もっとも、それがアカデミックな知見の深まりや新たな次元に繋がったかどうか、肯定・否定の様々な声を耳にいたします。

第8回研究大会では、共通論題を「安全保障をめぐるグローバルな関与と国内の論議」と題して、安保法制をめぐる政策論を脇に置いて相対化し、アプローチし直す機会とします。各国が、グローバルな安全保障上の関与を余儀なくされる一方で、その関与に伴うコストやリスクが国内で論争になっています。その動向と意義を問い直すと同時に、安全を追求すれば不可避的にかえって不安の拡大に帰結しかねない難問、すなわち「安全保障ジレンマ」について再検討できればと考えております。

再検討すべき課題は、実はグローバルな秩序をめぐって多数存在します。「グローバル・ガバナンスの民主化」は、そうした課題として最重要のものの一つでしょう。民主化は、グローバル・ガバナンスの主体や決定過程に加えて、成果としての問題解決や各国の民主化についても問われます。我々がこの問いに解答しあぐねている間に、非民主的な中進国が台頭し、期待されるガバナンス像・民主化像が揺れるという現象も生じているようです。部会「グローバル・ガバナンスの民主化は可能か？」は、意義深い問題提起の場になるものと思われまます。

これに関連して、「中国によるグローバル・ガバナンス構想」は対をなす部会にあたるでしょうか。影響力を強める中国は、グローバル・ガバナンスをどのように捉え、展望し、それをどのように行動に移しているのかを検討いたします。

グローバル・ガバナンスの研究は、一方では先端的な動向を対象とし、他方では、過去の現象や歴史の問い直しに向かっております。今回の研究大会でも、前者を部会「新しいグローバル・ガバナンスの試み」が扱い、女性と安全保障、人権をめぐる企業活動など、斬新なテーマを検討します。後者の歴史実証的な研究成果は、部会「戦後アジア秩序形成の再検討」において開陳されます。

新たな対象や課題の考察には、それに適合する分析枠組み・方法を必要としますが、その検討もまた、新たな局面を拓いています。その現時点を確認し、議論する上で、部会「国際規範の質的・量的分析ツール」は最適の場になるでしょう。

今回の研究大会も新鮮でチャレンジングな報告や討論を揃えており、会員の皆様が有意義な対話を交わす機会となれば幸いです。会員の皆様におかれてはぜひ参加くださいますよう、お願い申し上げます。

グローバル・ガバナンス学会会長 大矢根 聡

## 第8回研究大会・プログラム

日 時：2016年5月14日（土）15日（日）10時～18時

会 場：早稲田大学 早稲田キャンパス3号館

- ・下記のプログラムは4月14日時点のものであり、内容の変更等は学会ウェブサイトでお知らせいたします。
- ・すべてのセッションを会員のみならず、非会員の方にも公開いたします。
- ・非会員の学部学生は、学生証の提示をもって参加費無料といたします。
- ・一般の非会員の方は、500円をお支払いいただきますようお願いいたします。

1日目 5月14日（土）

10:00-12:00 部会 I

「グローバル・ガバナンスの民主化は可能か？」

（趣旨）

グローバル・ガバナンスを背景とした民主化／民主主義の問題はいま、複雑な様相を呈している。第1に、欧米流の民主制に合致しなくとも、安定したガバナンスを確立し、かつグローバル経済への積極的関与により経済発展を遂げる国家が現れてきた。他方で、外部からの強制的な民主化は必ずしも成功していない。第2に、欧米諸国から新興国へのパワーの移行が生じている。これは、欧米諸国の優位を是正し、国家間関係を民主化する契機になると考えられる。第3に、グローバルな問題群に介入主義的な対応をとる国際機構や非政府アクターをどう民主的に統制するのか、という問題ははまだ解決されていない。本部会は、こうした新たな状況や課題を踏まえ、グローバル・ガバナンスと民主化／民主主義との関係を再検討し、グローバル化に相応した正当かつ実効的なガバナンスの形態や民主制の在り方について新しい視点を提供したい。

司会者：千知岩 正継（北九州大学）

報告者：杉浦功一（和洋女子大学）

論 題：グローバル・ガバナンスの「民主化」は可能か？

報告者：渡邊智明（九州大学）

論 題：地球環境ガバナンスにおける「民主化」

報告者：佐藤誠（立命館大学）

論 題：平和構築における民主化とガバナンスのジレンマールワンダの事例から—

討論者：初瀬龍平（京都女子大学）、松井康浩（九州大学）

## 12:10-13:20 懇親会（昼食）

【会費 2500 円】 ※当日、研究大会・受付にてお申し込みください。

会場：ATTON（新宿区西早稲田 1-22-203） 電話 03-3205-8267

## 13:30-15:30 午後の部

### 部会Ⅱ

#### 「戦後アジア秩序形成の再検討」

（趣旨）

第二次世界大戦後、アジアの地図は一変した。そのような時期に、新しい秩序はいかに構想、形成されたのか。冷戦に向かう米国・ソ連の大国リアリズムの観点からは、アジアは陣営拡大のための草刈り場であった。戦後の理想や理念を掲げた新興諸国は、国際社会での主体性を望んだが、現実には貧困からの脱出、経済社会発展という目前の課題を抱えていた。やがて東西冷戦では捉えきれないアジア冷戦が生まれ、脱植民地化、国民国家形成という内的要素が全体像を一層複雑にしていた。パワーや利益、理念の要素が混とんとする当時のアジア空間には貴重な経験が詰まっている。本部会は、地域のニュアンスに基づいてガバナンスを考える一助としたい。その例として、早々と瓦解した東側同盟、日ソ関係の疎遠化、東南アジアでの多国間主義の定着、中国のアジア構想と対日・対米観、など現在にもつながる特徴の起源や過程の解明を試みる。

司会者：首藤もと子（筑波大学）

報告者：松村史紀（宇都宮大学）

論 題：東アジアにおける中ソ分業体制一起源、変質、蹉跌（1950年代）—

報告者：神田豊隆（新潟大学）

論 題：アジアにおける冷戦変容と日ソ関係—緊張緩和から停滞へ—

報告者：平川幸子（早稲田大学）

論 題：戦後東南アジアの多国間制度形成—英国・日本の経済社会イニシアチブ—

報告者：徐顕芬（中国・華東師範大学）

論 題：中国のアジア秩序構想—対日戦略における米国要因

討論者：菅英輝（京都外国語大学）、毛里和子（早稲田大学）

## 部会Ⅲ

### 「国際規範の質的・量的分析ツール」

(趣旨)

国際規範の研究は、欧州で冷戦構造が崩壊したのちの 1990 年代を通じて、実に幅広く取り込まれるようになっていった。それはいつかの流行で終わることもなく、現在にいたるまでさまざまな政策分野、争点領域で検討事例を積み上げ、いまやグローバル・ガバナンスの研究にとってなくてはならない成果を蓄積するにいたっている。しかし、この 20 年ほどの間に、その潮流を切り開いたコンストラクティヴィズムも、草分けとなったフィネモア・シキングのライフサイクル仮説も、批判され修正され改変され、理論的にも実証的にもあらたな展開を見せている。本部会では、そうした国際規範研究の最前線にスポットライトを当て、質的分析ツールと量的分析ツールの双方を取り上げ、相互に照らし合わせ再検討し、今後のあるべき研究方向を展望してみたい。

司会者：足立研幾（立命館大学）

報告者：東野篤子（筑波大学）

論 題：国際規範のコンストラクティヴィズム分析—ヨーロッパ統合論の視点から—

報告者：西谷真規子（神戸大学）

論 題：グローバル・ガバナンス分析のオーケストレーション・アプローチ—腐敗防止ガバナンスを事例に—

報告者：福井英次郎（慶應義塾大学）

論 題：国際規範の計量分析—EU 認識研究の観点から—

討論者：湯川拓（大阪大学）

## 15：45～17：45 共通論題

### 「安全保障をめぐるグローバルな関与と国内の論議 —安全保障ジレンマを超えて—」

(趣旨)

昨年以來、日本において安全保障関連法が議論の的になっているが、共通論題では当面の政策論争を相対化し、アカデミックな検討を進める手がかりとして、安全保障をめぐる今日の状況を検討し直す。その際に一方では、各国がグローバルな安全保障上の関与を余儀なくされ、他方では、その関与に伴うコストやリスクをめぐって国内で論争が生じている状況に着目する。その動向を冷戦後の日本、アメリカ、ドイツについて解明し、その延長線上で安全保障の根本的問題である「安全保障ジレンマ」がどのように推移しているのかも再検討する。安全保障問題の文脈をグローバル・国内の

両レベルで確認し、また日米独の比較を試み、その縦軸と横軸の座標のなかで、今日の日本における安全保障を検討するための視点を摸索する。

司会者：渡邊啓貴（東京外国語大学）

報告者：石川卓（防衛大学校）

論 題：日本の「抑止力強化」と日米同盟の「グローバル化」

報告者：前嶋和弘（上智大学）

論 題：安全保障政策における国際関与と国内論議—アメリカの場合—

報告者：中村登志哉（名古屋大学）

論 題：安全保障政策における国際関与と国内論議—ドイツの場合—

討論者：石田淳（東京大学）

**2 日目 5 月 15 日（日）**

**10:00-12:00 部会Ⅳ（日本公益学会との共催）**

**「新しいグローバル・ガバナンスの試み」**

（趣旨）

各国で実現が容易でない規範について、国境を越えた取り組みを進めることで、新たな規範がグローバルなレベルで浸透してゆき、また回帰的に各国の規範成立が促される現象が生じる。人間の基本的なあり方に関わる人権と女性の権利、社会的課題への対応という、社会生活にも関わる領域の規範についても、そうした動きやその胎動が認められそうである。本部会では、女性と安全保障、人権基準、社会的課題という、規範の確立が遅れていると考えられがちな領域について、国内外の規範構築に向けた動きとその背景にあるメカニズムを検証する。それらはグローバルな規範や秩序、日本の政策に関して、示唆を与えるものとなる。

司会者：軽部恵子（桃山学院大学）

報告者：岩田英子（防衛研究所）

論 題：女性と安全保障に関する—考察—国連安保理決議 1325 号から捉える国際的ジェンダー・メインストリーミング規範の伝播・ローカル化・制度化とその含意—

討論者：川眞田嘉壽子（立正大学）

報告者：菅原絵美（大阪経済法科大学）

論 題：国際人権基準の越境的実施—人権ガバナンスにおける企業活動の規制—

討論者：梅田徹（麗澤大学）

報告者：中島智人（産業能率大学）

論 題：社会的課題の解決に向けた社会的目的と経済的目的との融合  
—英国におけるコミュニティ利益会社制度の展開と日本への示唆—

討論者：大森佐和（国際基督教大学）

### 12:00-13:30 昼食

※ 同時帯に理事会を開催（14号館1040）。

※ 昼食は各自ご用意ください。

### 13:30-15:30 部会V

#### 「中国によるグローバル・ガバナンス構想」

（趣旨）

中国は、経済成長に陰りがみられるとはいえ急速な台頭を遂げ、アジア太平洋地域の政治経済はもとより、グローバルな秩序のあり方に大きな影響を及ぼす存在になった。しかし、その中国がグローバルな秩序についてどのような方針や理念を抱いているのか、その背景にどのような企図や利益が潜んでいるのか、必ずしも明確ではない。そのためか、各国において中国に対する期待や楽観と不安や懸念が交錯しており、対中政策を定める基軸を見いだしにくい状況が続いている。本部会では、中国におけるグローバル・ガバナンス論を概観するとともに、より具体的に国際経済分野や一帯一路構想に照準をあわせ、政策や行動の実態にそくした検討を行い、中国流のグローバル・ガバナンスの構想や発想法に迫りたい。

司会者：加茂具樹（慶應義塾大学）

報告者：兪敏浩（名古屋商科大学）

論 題：中国における「グローバル・ガバナンス論」一言説、動機、含意—

報告者：和田洋典（青山学院大）

論 題：国際経済ガバナンスにおける中国の「攻勢」をどうみるか（仮）

報告者：三船恵美（駒沢大学）

論 題：中国の「一帯一路」構想—グローバルガバナンスの新モデルの探求？—

討論者：天児慧（早稲田大学）

\*\*\*\*\*

## 交通アクセス



### バスをご利用の場合

- ① JR 山手線/西武新宿線高田馬場駅⇒早大正門行（学 02 系統）、**バス停 A**よりバス 10 分、早大正門バス停下車すぐ
- ② JR 山手線/西武新宿線高田馬場駅⇒九段下行（飯 64 系統）/上野公園行（上 69 系統）**バス停 C**よりバス 12 分、早稲田バス停下車徒歩 1 分

### 地下鉄をご利用の場合

- 東京メトロ東西線早稲田駅 3b 番出口/2 番出口より徒歩 5 分
- 東京メトロ副都心線西早稲田駅 1 番出口より徒歩 15 分

### 路面電車をご利用の場合

- 都電荒川線早稲田駅より徒歩 5 分





\*大会のプログラムは、本学会のウェブページでも順次更新してご案内いたします

<http://globalgovernance.jp/>

\*本学会のウェブサイトにて、事前に参加申し込みを実施できます。

\*なお、当プログラムは4月14日時点の情報に基づいて作成されております。

\*今年度会費未納の方へのお知らせ

研究大会・受付でも年会費の納入を受け付けます。

次の口座に年会費をお振込みくださっても結構です。

00930-9-128155

グローバル・ガバナンス学会